

---

CFP国際ワークショップ御中

# イオンのカーボンフットプリントの取り組み

2011年12月15日  
イオン株式会社  
グループ環境社会貢献部  
椋島 裕美枝

# イオングループの概要



営業収益 (2010年度)  
5,096,569 (百万円)



韓国でミニストップを展開



日本で THE FACE SHOP を展開

## 店舗数

●GMS (総合スーパー)	590店舗
●SM (スーパーマーケット)	1,307店舗
●ディスカウントストア	104店舗
●ホームセンター	127店舗
●コンビニエンスストア	3,811店舗
●その他 (小売り)	269店舗
●専門店	3,305店舗
●金融	401店舗
●サービス	1,410カ所
●ドラッグストア	2,657店舗
合計	13,981店舗

アジア12カ国での海外展開

## イオンの環境への取組

## イオンサステナビリティ基本方針

私たちイオンは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という基本理念のもち、多くのステークホルダーの皆様とともに、持続可能な社会の実現を目指します。

取組にあたっては、「低炭素社会の実現」「生物多様性の保全」「資源の有効利用」「社会的課題への対応」を柱とし、グローバルに考え、それぞれの地域に根ざした活動を積極的に推進してまいります。

サステナブル経営の実現 「社会の発展」と「グループの成長」の両立へ

重点課題①

低炭素社会の  
実現



重点課題②

生物多様性の  
保全



重点課題③

資源の  
有効利用



重点課題④

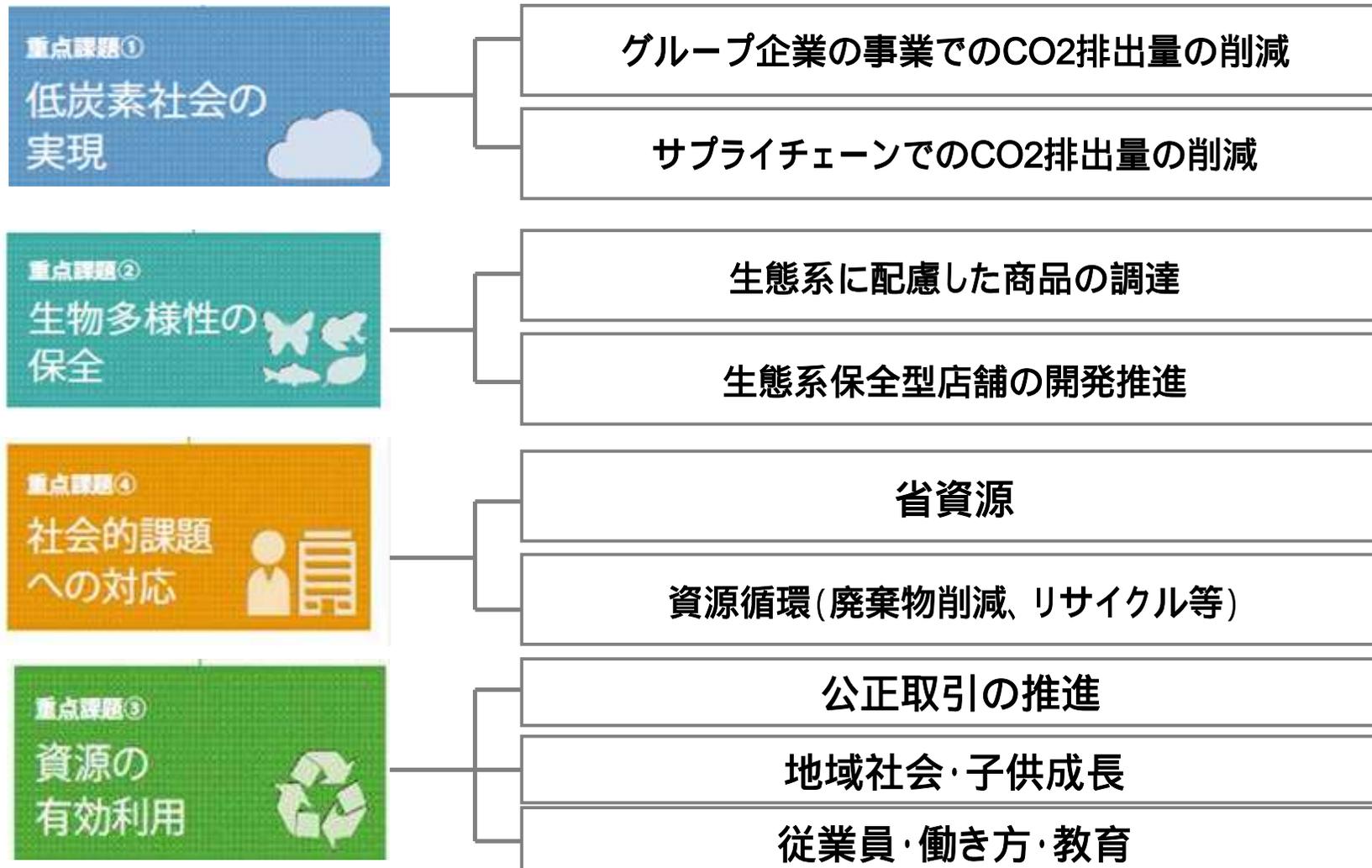
社会的課題  
への対応



# サステナビリティ基本方針に関するKPIの策定



サステナビリティ基本方針に関して、4つの重点課題ごとに、達成度を定量的に把握するために、KPIの策定を実施しました。



# KPI－低炭素社会の実現に向けて



重要課題	大分類	KPI	対象範囲	2013年度目標
<b>低炭素社会の実現</b> 	店舗でのCO2削減	年間CO2総排出量	国内連結対象グループ会社	・2010年度:250万トン 2013年度:225万トン (2006年度比20%削減)
		エコストア開発	国内連結対象グループ会社	CO2排出50%削減をめざす次世代エコストアのコンセプト策定と店舗開発
			国内連結対象グループ会社	標準型エコストアのコンセプトの見直しと全新店への基準適用
		エネルギー総使用量(原油換算千kl)	国内連結対象グループ会社	・2010年度:1,550千キロ? 2013年度:1,400千キロ? (10%削減)
		「エネルギー管理セミナー」の修了者(合格者)数	国内連結対象グループ会社	2013年度までに累計で600人が受講
		中国事業におけるエネルギー原単位の改善	中国事業5社	2010年度比原単位で15%削減 (例:延床面積当りのエネルギー使用量)
		冷ケースのフロン類の補充量把握と漏洩防止	国内連結対象のGMS、SM企業	フロン類補充量を把握し、漏洩防止対策を実施
		冷ケースの自然冷媒設備の実験導入店舗数	国内連結対象のGMS、SM企業	GMS、SM新店で従前の1系統での実験から複数系統での実験へ移行
	商品・物流でのCO2削減	ライフサイクルにおけるCO2算定商品数(商品のCO2算定数)	プライベートブランド(PB)商品	・2010年度:21SKUを 2013年度:100SKU *CO2排出量削減対象商品の算定
		物流センターから店舗までの配送における1ケース当りCO2排出量	イオングローバルSCM(株)	1ケース当りの店舗配送で発生するCO2排出量を2010年度比5%削減する

## イオンのカーボンフットプリントの取組

# カーボンフットプリントに取り組む目的



## 環境

カーボンフットプリント表示でお客様のCO<sub>2</sub>削減をお手伝い。

商品にカーボンフットプリントをつけると、商品のCO<sub>2</sub>排出量が、一目でわかるようになります。トップバリュでは、現在、商品開発段階でのCO<sub>2</sub>の可視化をめざしており、お客様が買い物を通じて、CO<sub>2</sub>を下げる商品選択ができるように、お手伝いをしたいと考えています。



## 経済性

ムダを省くことでCO<sub>2</sub>とコストを削減。価格も削減へ。



電気の使用を節約するとCO<sub>2</sub>削減そして、家計も節約できるのと同じように、商品の製造工程のムダを、CO<sub>2</sub>の見える化を通して発見して、地球にも家計にも優しい商品を提供をしていきます。

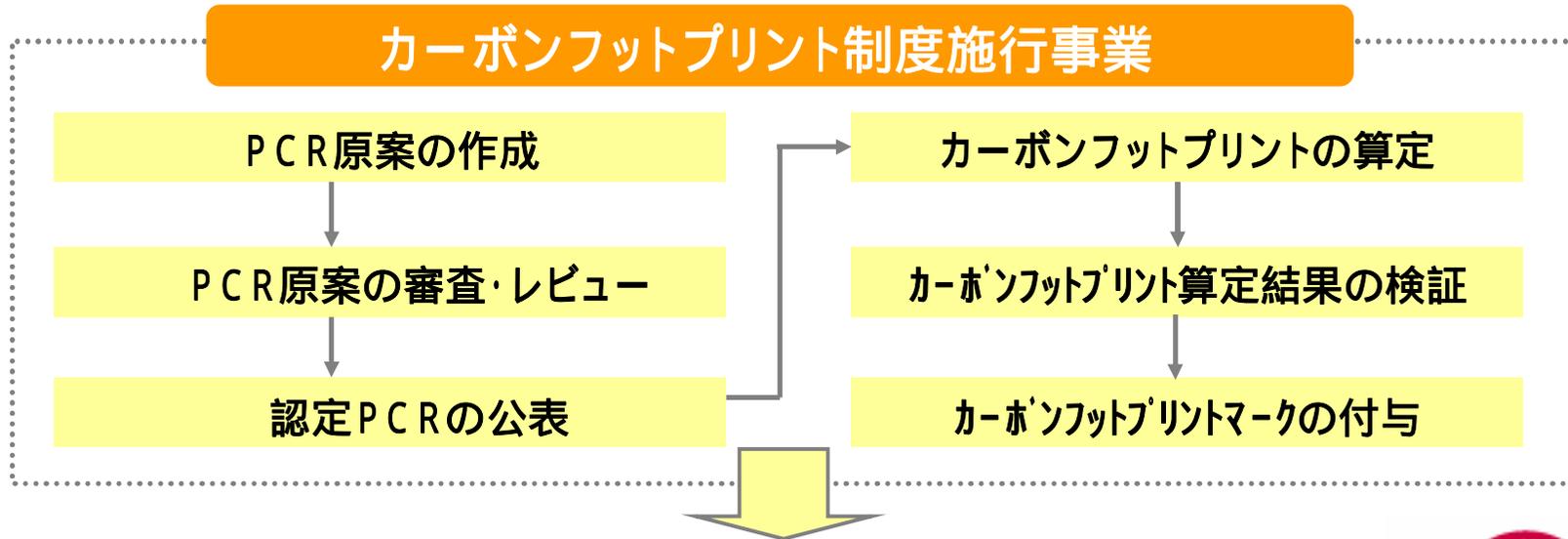
## 安心安全

原材料から、細く把握することでトレーサビリティを担保。

カーボンフットプリント計測では、原料調達の際の、運送方法、輸送ルートなど、細かく把握していきます。原料から廃棄までの商品のプロセスの詳細把握を通じてトレーサビリティの向上をめざします。



# 国のカーボンフットプリント制度試行事業への参画



イオンのPB製品「トップバリュ」で国の制度を活用して検証を受けました。



## 13カテゴリーのPCR策定に参加

- ・消費者に身近な製品について取り組み
- ・日本を代表する商品「米」から取組開始

### イオンが参画し認定されたPCR例

農産物(野菜・果実、ジャポニカ米など)

加工食品(食用油、パックごはんなど)

日用雑貨(衣料用洗剤、照明ランプなど)

## 関係するステイクホルダーと共に

### PCR策定ワーキンググループメンバー (例)うるち米

農家、農協、精米メーカー、サプライヤー、

精米工業会(業界団体)、イオン

# PCRの構成（例：野菜と果実）



## 総括的な要求事項

範囲、製品の定義、引用、用語及び定義、対象範囲

## 全ライフサイクル段階に共通して適用する項目

ライフサイクルフロー図、データの収集範囲、データ収集期間、アロケーション、カットオフ

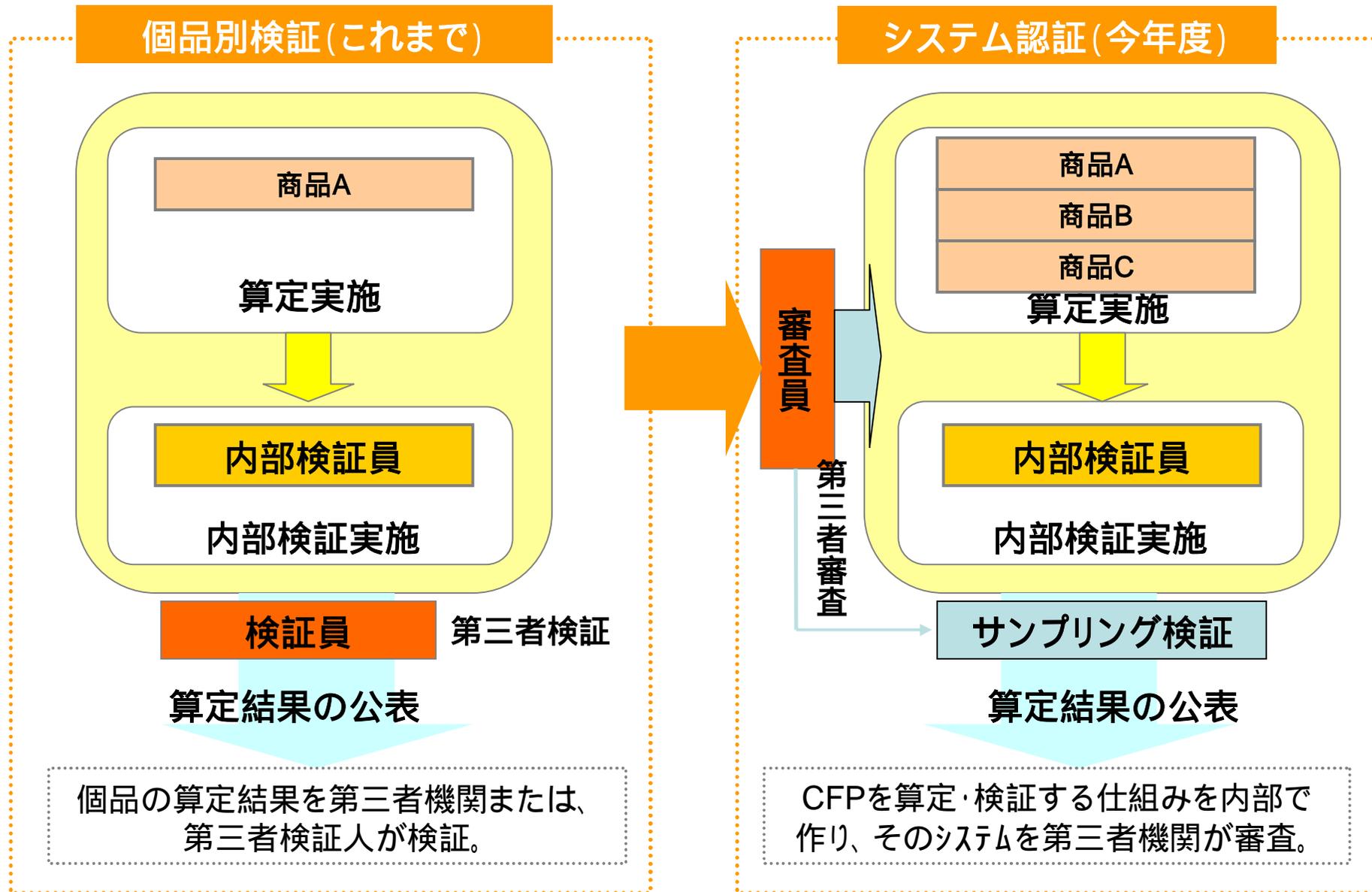
## 特定のライフサイクル段階に適用する項目

データ収集範囲に含まれるプロセス、データ収集項目、一次データの収集項目、一次データの収集範囲及び収集条件、シナリオ

原料調達段階	生産段階	流通段階	使用維持管理段階	廃棄リサイクル段階
複数の調達先からデータ収集する場合の特例	複数の生産者がデータ収集する場合 育成期間がある場合の算定方法 地域や公的なデータの扱い	複数の輸送ルートが存在する場合の特例		複数の廃棄・リサイクル処理場で商品を扱う際の特例

## 表示方法

# 個別検証からシステム認証へのシフト



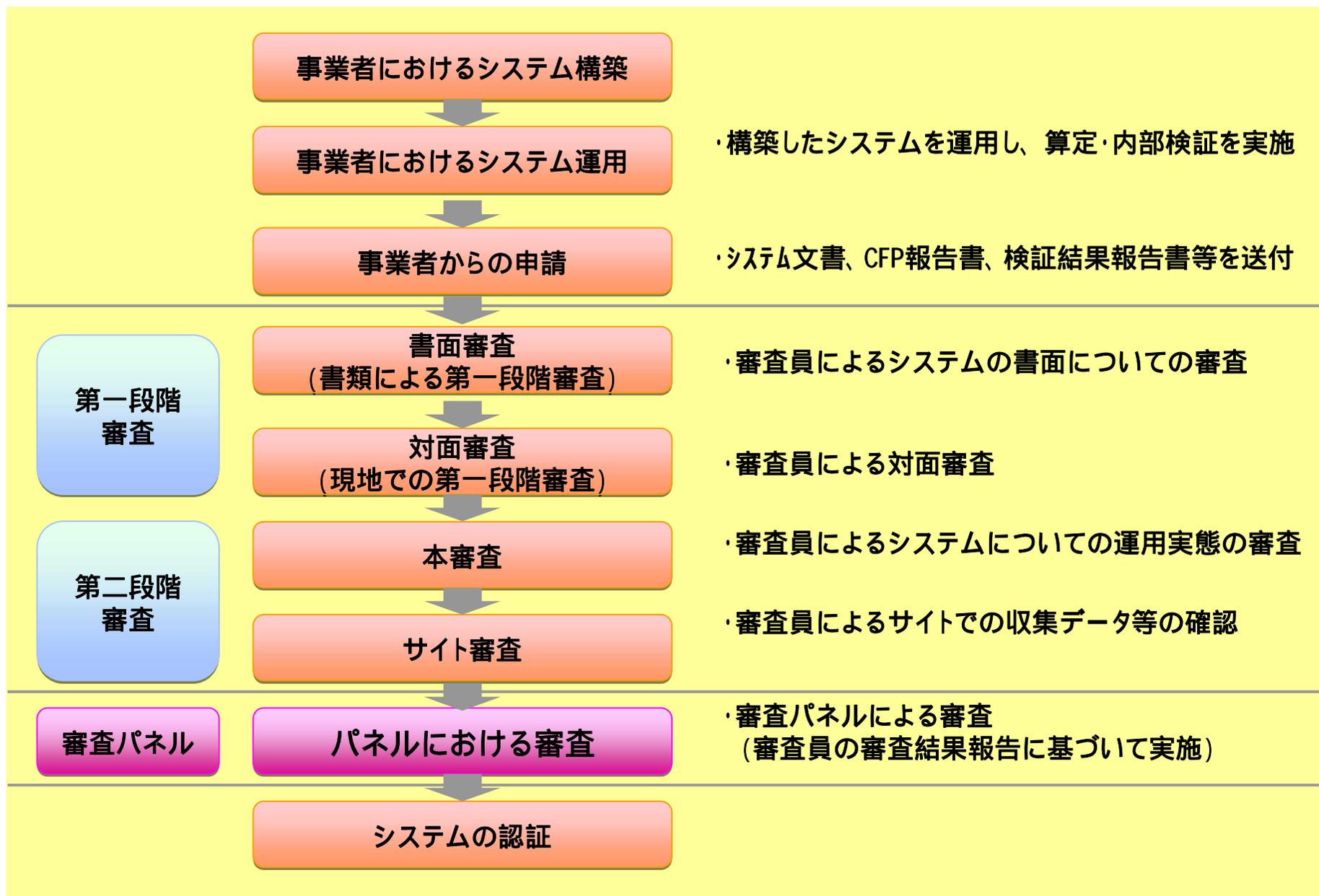
# EMSをベースにCO2マネジメントシステムを構築



ISO14001 手順  
イオンCO2管理



# CFPシステム認証の流れ



## カーボンフットプリントのコミュニケーションの取組

# カタログ販売でCFPの表示をスタート



- ・2009年10月～12月、全国1259店舗とインターネットでお歳暮ギフトでの販売実施。
- ・物流効率改善、包装紙削減などエコギフトの取組の一貫として、商品表示の取組として実施。



衣料用洗剤  
トップバリュスーパークリーン



菜種油  
トップバリュキャノーラ油



うるち米  
グリーンアイあきたこまち



# 地域のステイクホルダーと共に



ギフトカタログ



滋賀県嘉田知事を囲んでの立命館大学、JA北びわこ、イオン合同のCFP算定結果報告会



「カーボンフットプリントへの取組は、環境にやさしい農業への取組を実践しようとする産地の意思表示だととらえています。」  
- 前東国原宮崎県知事



# 地域のステイクホルダーと共に一宮崎県産ピーマンのCFP



宮崎産フェアの目玉としてCFPを訴求



エコプロダクツ展でのCFPの取組紹介



農産売り場でのCFP訴求の様子



東国原前知事によるCFPピーマンのPR

# 地域のステイクホルダーと共にー滋賀県産こしひかりのCFP/AEON



店頭での展示



滋賀県知事への報告会



米売場の様子

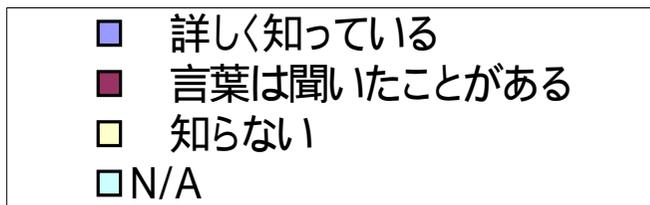
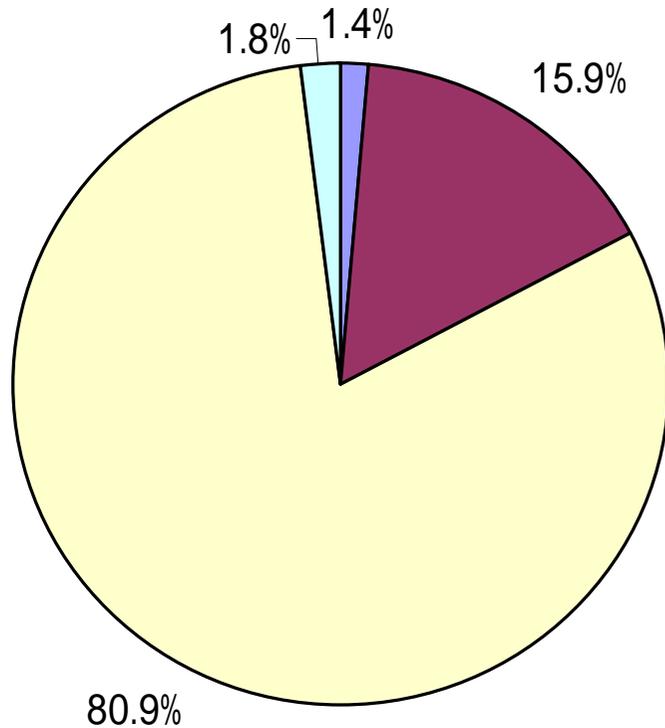
## 店頭でのVP



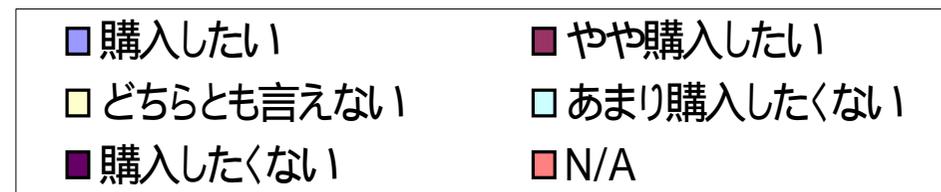
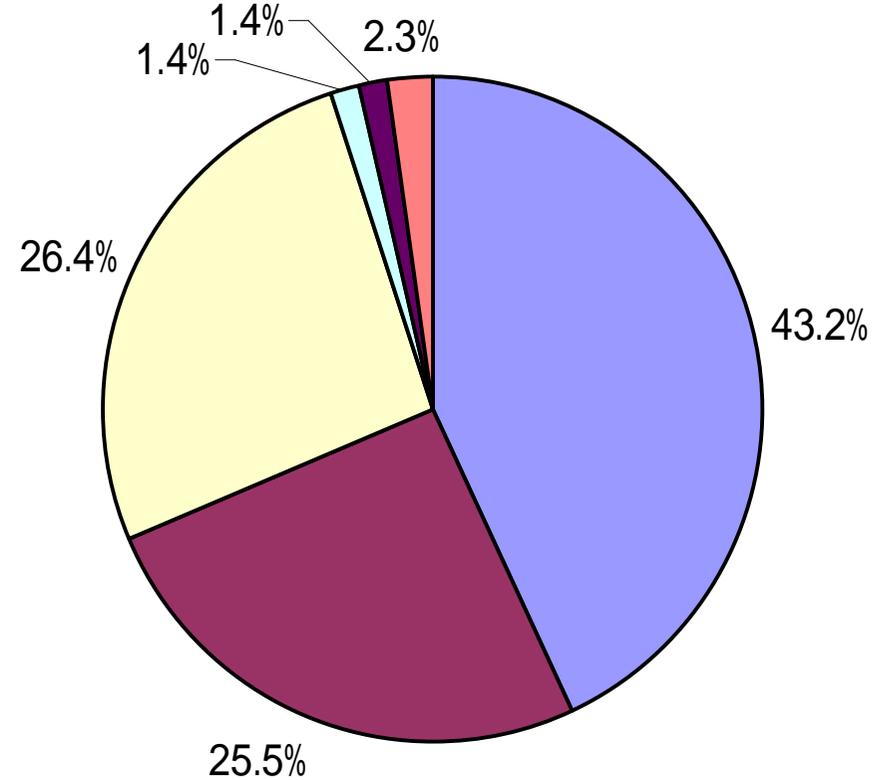
# 店頭での消費者受容調査について



## カーボンフットプリントの認知度



## カーボンフットプリント商品の購買意欲



アンケート実施期: 2010年2月 有効回答人数: 220 実施場所: 首都圏のジャスコ5店舗



「環境のために、社会のために役に立ちたい」という  
お客さまの“想い”をカタチにする。

<ブーステーマ>

私にも、明日からできることがある  
～イオンのエコプロダクツ展2011～



東6ホール 小間番号026